

平成28年社会生活基本調査 集計結果について

平成 29 年 8 月 1 日
京都府政策企画部企画統計課

総務省統計局から平成28年社会生活基本調査の集計結果が公表されました。

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」）について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等へのかかわりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とするものです。

この調査は、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施され、今回の調査は9回目に当たります。

平成28年社会生活基本調査は、全国の世帯から無作為に選定された約8万8千世帯に居住する10歳以上の世帯員約20万人を対象に、平成28年10月20日現在で実施されました。（京都府では、約1,700世帯が調査対象となりました。）

■生活行動

過去1年間(平成27年10月20日から28年10月19日まで。以下同じ。)に「学習・自己啓発・訓練」や「スポーツ」などの行動を行った人(10歳以上。以下同じ。)に関する結果です。

[利用上の主な用語]

行動者数	過去1年間に該当する種類の活動を行った人の数
行動者率	行動者数の10歳以上人口に占める割合(%)

1 学習・自己啓発・訓練

—行動者率は41.1%で全国で3番目に高い—

過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は96.1万人で、行動者率は41.1%となり、全国で3番目となっています。(表1)

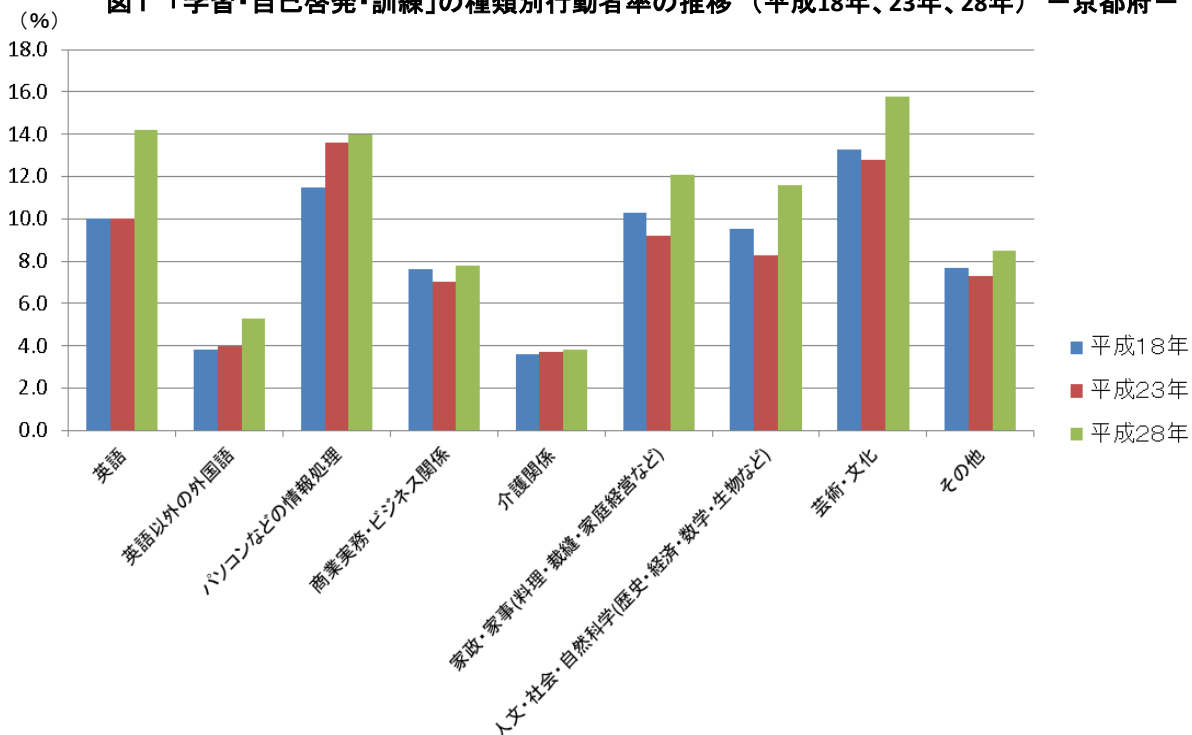
表1 都道府県別「学習・自己啓発・訓練」の行動者率(平成28年)

都道府県名		行動者率(%)		
		総数	男	女
	全国	36.9	36.5	37.4
1	東京	46.2	45.6	46.7
2	神奈川	43.9	43.8	43.9
3	千葉	41.1	41.7	40.6
3	京都	41.1	41.2	41.0
5	滋賀	39.9	40.7	39.2

種類別に行動者率をみると「芸術・文化」が最も高く15.8%、次いで「英語」が14.2%、「パソコンなどの情報処理」が14.0%となっています。

平成23年と比べるとすべての項目において高くなっています。(図1)

図1 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率の推移(平成18年、23年、28年) —京都府—

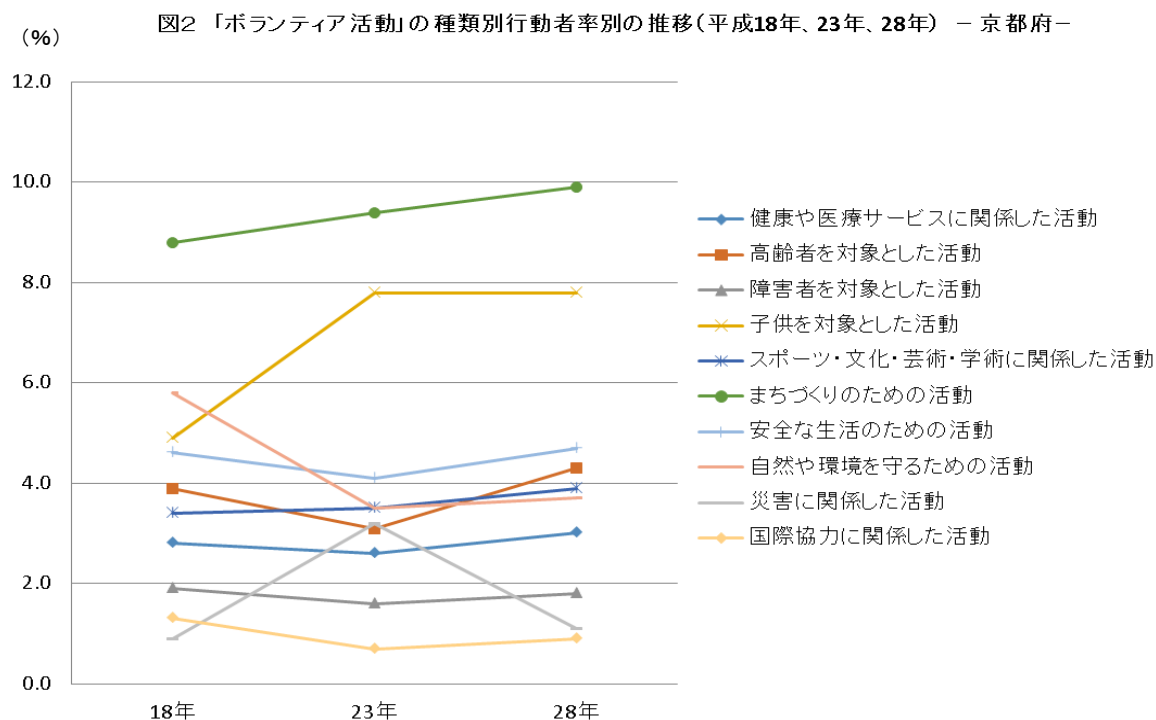


2 ボランティア活動

－災害に関係した活動が前回より2.1ポイント低下－

「ボランティア活動」を行った人は57.5万人で、行動者率は24.6%となり平成23年に比べ1.4ポイント上昇しました。

平成23年と比べると、「高齢者を対象とした活動」が1.2ポイント上昇しており、「災害に関係した活動」が2.1ポイント低下しています。(図2)



年齢階級別に行動者率をみると65～74歳の年齢階級が31.4%と最も高く、15～24歳が18.0%と最も低くなっています。

男女別にみると、男性は65～74歳の年齢階級が34.1%と最も高く、女性は35～44歳の年齢階級が33.3%と最も高くなっており、65歳未満では女性の方が男性よりも行動者率は高く、65歳以上では男性の方が高くなっています。(図3)

